

クラス番号	605	担当教員名	石河 久美子
テーマ	国際的視点でソーシャルワークを考える—在住外国人への支援を中心に		
著書・論文	[著書]「異文化間ソーシャルワーク—多文化共生社会をめざす新しい社会福祉実践」川島書店 2003年 「多文化ソーシャルワークの理論と実践—外国人支援者に求められるスキルと役割」明石書店 2012年		
研究課題等	[論文]「多文化ソーシャルワーカーの必要性」『社会福祉研究』第105号、鉄道共済会、2009年 [研究課題]在日外国人支援、多文化ソーシャルワークの理論の開発、多文化ソーシャルワーカー育成		

ゼミナール概要

キーワード：多文化ソーシャルワーク、国際、外国人支援、

目的、内容、方法等：

みなさんは社会福祉の分野、サービス対象者というどんなことをイメージしますか。高齢者、障害者、児童の分野、日本人の問題を扱うというのが頭に浮かぶのではないのでしょうか。しかし、近年、南米やアジアから日本にやってくる外国人の増加、長期滞在、定住化が進んでおり、これらの生活者としての外国人をどう支援していくかは、日本の社会福祉の新しい重要課題です。特に愛知県は、外国人登録者数の多さでは都道府県の中で全国第3位、ブラジル人人口では第1位で、外国人支援者の育成が強く望まれる地域です。

このゼミでは、外国人たちはなぜ日本にやってくるのか、日本で生活をしていく上でどのような問題を抱えているのか、日本人である私たちは彼らとどう関わっていったらいいのか、どのように日本社会が変わっていくべきか、必要とされる支援方法やサービスのあり方は何かといったことを、ソーシャルワークの視点から、ゼミ生と教員が一緒に考え学んでいきます。

外国人の抱える問題としては、日本人との国際結婚にまつわる問題、ドメスティック・バイオレンス、外国人の母親の育児不安、児童虐待、外国人児童の不登校、不就学、外国人女性に対する性的搾取、人身売買などがあげられます。ゼミでは、これらの問題の背景には何があるのか、また問題に対応していくにはどうしたらいいかを具体的に考えていきます。

フィールドワークをはじめとして多様な学習の方法を通して、幅広い国際的な視野を持ち、柔軟な思考と創造性を備え、人と社会環境に効果的に働きかけることのできるソーシャルワーカーとしての力を身につけていきます。

さらに詳しくは、先輩ゼミ生が作成した下記のゼミナール紹介を参照してみてください。

http://www.n-fukushi.ac.jp/gakubu/fukushi/zemi/k_jshikawa/index.htm

ゼミの学習計画：

3年前期は、在日外国人の現状や問題を関連資料、テキスト、ビデオ、フィールド見学、グループ発表を通して学び、後期は東海地方の外国人の現状や生活課題を掘り下ることと、外国人支援現場でのフィールドワークを実施します。春休みに卒論のテーマを絞り、4年前期は、具体的な外国人支援方法を深めると共に、各自卒論の作業を進めていきます。後期は卒論の完成に向けて各人の研究成果の報告を積み上げるとともに、社会福祉士対策のサポートを行います。

使用テキスト

石河久美子『多文化ソーシャルワークの理論と実践—外国人支援者に求められるスキルと役割』明石書店 2012年

担当教員からのメッセージ



ゼミ室だけの学習にとどまらず、フィリピン人女性の支援団体や、ブラジル人児童の教育支援団体の見学や活動参加などのフィールドワークも実施します。進んで外国人当事者と関わる、ボランティアをするなど積極性のある方を歓迎します。

外国人支援は、社会福祉では開拓的なテーマです。新しいこと、人と少し違ったことを勉強してみたい人、ぜひチャレンジしてみてください。ゼミの卒業生は、外国人支援関係、公務員、MSW、生活施設職員、社協職員、企業勤務と多様な現場で活躍しています。卒業しても仲がよく、同窓会も時々やっています。